

体育科事例

単元名 「全身で、全力で、遠くに投げよう」

～目指す児童の動きを質的に設定し、動きを高める学習を通して3つの資質・能力の向上を図る～

第3学年「C 走・跳の運動」に加えて実施する「投の運動」

1 単元の目標

- (1) 投げる運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、全身を使って全力で投げることができるようにする。 【知識及び技能】
- (2) 自己の投の能力に適した課題を見つけ、動きを身に付けるための運動の仕方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】
- (3) 運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動したり、友達の考えを認めたり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①投の運動の行い方を言ったり、学習カードに書いたりしている。 ②投げる腕と反対の足を踏み出し、胸を張り、腕を大きく振って投げることができる。 ③短い助走からステップするなど大きい重心移動から投げることができる。(4年)	①学習カードと自分の動きを比較し、動きの改善点を見付けている。 ②動きの改善点について、気付いたことや考えたことを友達に伝えている。(4年)	①自分の動きについての友達の意見を認めようとしている。(4年) ②運動を行う前に、場や用具の安全を確かめている。

※第3学年及び第4学年において継続して指導する単元のため、は、第4学年で評価する計画。「走・跳の運動」のまとまりの中で、「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」の評価を計画的に設定することにより、本単元の評価の観点の精選を図った。

3 指導と評価の計画

学年	3			4	
	1	2	1	2	
ねらい	投げる運動の行い方が理解できるようにする	課題を改善する運動をすることができるようにする	より遠くに投げる運動の行い方が理解できるようにする	課題を改善する運動をすることができるようにする	
指導内容	・胸を張り、腕を大きく振って投げる。 ・学習資料と自分や友達の動きを比較し、課題を見付ける。 ・場や用具の安全に気を付けて運動する。	・踏み出した足を軸に、体を回転させて投げる。 ・3人組で相談して、より遠くに投げるために、運動の場や方法を選ぶ。	・助走やステップによる投げ方を理解する。 ・学習資料と自分や友達の動きを比較し、課題を見付ける。 ・場や用具の安全に気を付けて運動する。	・第3学年の指導内容に加え、短い助走からステップするなどの大きい重心移動から投げる。 ・動きの改善点について、気付いたことや考えたことを友達に伝える。	
学習過程	0	1 健康観察・学習内容確認 準備運動	1 健康観察・学習内容確認 準備運動	1 健康観察・学習内容確認 準備運動	1 健康観察・学習内容確認 準備運動
	10	2 感覚づくりの運動 ・「シャトル投げ」 ・「バトンスロー」 ・「てるボール投げ」	2 感覚づくりの運動 ・「シャトル投げ」 ・「バトンスロー」 ・「てるボール投げ」	2 感覚づくりの運動 ・「シャトル投げ」 ・「バトンスロー」 ・「てるボール投げ」	2 感覚づくりの運動 ・「シャトル投げ」 ・「バトンスロー」 ・「てるボール投げ」
	20	3 投げる動きのポイント確認 ・学習資料 ・動画	3 学習課題の確認	3 投げる動きのポイント確認 ・学習資料 ・動画	3 学習課題の確認
	30	4 3人組で互いの動きを見る ・投げる力の自己評価 ・動きのポイントとの比較	4 3人組で記録を伸ばす活動 ・自己の能力に合わせて運動の場を選択する ・資料と比較し、動きの改善点を伝える	4 3人組で互いの動きを見る ・投げる力の自己評価 ・動きのポイントとの比較	4 3人組で運動、教え合い ・見るポイント伝える ・気付いたことを伝える ・動きを交えて伝える
	40	5 学習の振り返り ・投げる動きのポイント	5 学習の振り返り ・教え合いの成果や課題 ・運動の日常化	5 学習の振り返り ・投げる動きのポイント	5 学習の振り返り ・教え合いの成果や課題 ・運動の日常化
評価計画	知・技		①学習カードの記述 ②観察（動画撮影）		①学習カードの記述 ③観察（動画撮影）
	思・判・表	①学習カードの記述		②学習カードの記述	
	主体的態度	②観察		②観察	①学習カードの記述

4 指導と評価の工夫

POINT 1 目指す「投の動き」を質的に確認する

児童が投げる運動の行い方を理解し、友達との対話を通して動きを高め、投の運動の技能（パターン5）を習得できるように指導する。

- ・遠くに投げることができる高学年児童の動きを動画で見て、運動のポイントを確認する。

「動きが大きい」、「動きが速い」
『トン・トン・ビュン』のリズム

は同じだけど『ビュン』の勢いがすご

「足を踏み出している」「投げ終わった後、右足がういている」

反対足を軸に回転して投げていることの児童なりの言葉で表現する。



「投げる動作」の動作発達段階の特徴	動作パターン
パターン1 上体は投射方向へ正対したままで、支持面（足の位置）の変化や体重の移動は見られない	
パターン2 両足は動かず、支持面の変化はないが、反対側へひねる動作によって投げる	
パターン3 投射する腕と同じ側の足の前方へのステップの導入によって、支持面が変化する	
パターン4 投射する腕と逆側の足のステップがともなう	
パターン5 パターン4の動作様式に加え、ウィンドアップを含む、より大きな動作が見られる	

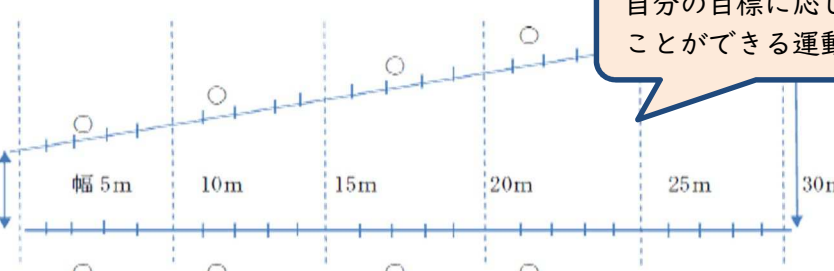
い」 幼年期運動指針ガイドブック（2013 文部科学省）

児童が表現した言葉を整理し、指導者が身に付けさせたい動きと児童が目指す動きを関連付けてから運動する。運動の行い方の理解については学習カードの記述から、動きの習得については観察により評価する。

POINT 2 動きを高めるための言語活動を設定する

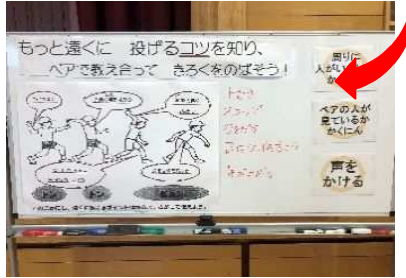
学習の場の設定として、次の点に留意する。

- 目標をもって繰り返し運動できること



自分の目標に応じて選ぶことができる運動の場

転がりにくいため、すぐに拾って繰り返し運動できる教材



- 運動を繰り返し、学びの気づきが発見しやすい中で、児童が互いに声をかけ合う学習環境づくり
 - ◆運動は3人組で行い、互いの動きの良い点や改善点を伝え合いながら行う。
 - ◆「重心の移動」、「踏み出した足を軸とした回転」、「胸の張り」、「大きな腕の振り」、「肘を高く上げる」を視覚的に示したカードを掲示し、自分たちの動きと比較できるようにする。
 - ◆「トン・トン・ビュン」のオノマトペと、視覚資料を組み合わせることで、声に出しながら運動の行い方の理解を深められるようにする。
 - ◆教師が児童の投動作をタブレット端末で撮影し、児童同士の教え合い場面で適宜視聴させる。

児童が運動の行い方を知り、動きながら活発に言語活動を行う学習の中で教師は適宜指導を加える。児童が学習カードに記述した考えや気づきから、動きの改善点を見付けているか評価する。

POINT 3 「学びに向かう力、人間性等」を計画的に指導し評価する

場の安全に気を付けることができるようにするために、投の運動ではどんなことに留意すればよいのか、第1時で具体的な指導をする。

- ・周りに人がいないか確認する
 - ・ペアの友達が自分を見ていることを確認する
 - ・「投げるよ」と周りの友達に声をかける
- 安全を確認してから投げる

具体的な指導を行い、その行動を行っているか観察することで、運動を行う前に場や用具の安全を確かめているか評価する。

